

令和 8 年度 学校経営計画

1 学校教育目標

(1) 教育目標

豊かな心と健やかな体で、学問・スポーツ・芸術に打ち込み、志を高く、世界を見つめる人間を育てる。

(2) 教育方針

ア 自主自律の精神を育成し、自ら学習する態度を培う。

イ 心身を鍛練し、責任ある態度と自他の生命を尊ぶ健全な人格形成をめざす。

ウ 個性を伸ばし、自然と芸術を愛する心を養い、豊かな感性を育てる。

エ 外国語の習得と、積極的な国際交流を通し、国際人としての基礎を培う。

オ 相互敬愛の念を持ち、社会に奉仕する心を育てる。

2 学校の特徴

本校は、昭和2年4月に伏木町立伏木商業学校として創設され、今年で創立99周年を迎える。国際貿易港・伏木富山港を眼下に望む立地を活かし、長年に渡って、商業科、貿易科、普通科の教育の中で国際理解教育を推進してきた。平成17年4月の学科改編により、それまでの普通科4学級にかわって国際交流科3学級が設置された。国際理解教育を中核とする専門学科の単科高校として新たなスタートをきり、今年で21周年を迎える。

国際交流科は、国際化社会の中でたくましく生きていくために必要な基礎・基本の学力を培い、コミュニケーション能力を高めることを目標としている。専門的な知識と技能を修得するために、国際理解に関する専門教科や英語に加えて、第2外国語として韓国語・中国語・ロシア語のいずれかを学んでいる。また、実践的な語学力と異文化理解を深めるため、韓国、中国、ロシア、アメリカの4か国それぞれに友好校をもち、韓国、中国、ロシアの3か国と相互交流を行ってきた。

生徒は第2学年時にいずれかの国へ語学研修に行き、実践的な語学力を高めるとともに、異文化の理解を通して国際的な視野を育て、自己理解を深めている。

3 学校の現状と課題

(1) 現状

本校は県下唯一の国際交流科単科校として、実践的な語学力を身につけ、コミュニケーション能力の向上やグローバルな視野を育成している。昨今の社会情勢等によって本校の国際理解教育の中核である海外語学研修が影響を受けるなか、短期間の海外語学研修や国内語学研修に加え、オンラインによる交流を行ってきた。今年度は、友好校の受け入れ事業（11月韓国・清明高校）を実施するとともに、海外語学研修（12月韓国・台湾、ホームステイあり、3月アメリカ）の実施を計画している。友好校との相互交流プログラムを一層充実させ、生徒の国際人としての素養を育みたい。また国際理解教育を軸にした本校ならではの魅力を積極的に外部へ発信し生徒募集に繋げていきたい。

生徒は素直で社会貢献意識が高い反面、自己肯定感がやや低い傾向があり、諸活動に自ら取り組むことに消極的な面も見られる。学習面や生活面で、個に応じた適切なサポートをしながら自信をもたせ、国際理解教育や地域貢献の機会を活用し、生徒の主体性・積極性を育みたい。

(2) 課題

・国際情勢による交流活動の制約

特に中国・ロシア（ウラジオストク）との交流は、地理的に近い富山県の特性を活かした強みだったが、現在の世界情勢により現地への直接訪問が困難になっている。オンライン研修や国内での代替策を講じているが、肌で感じる異文化体験の質をどう維持・向上させるかが大きな課題である。

・少子化に伴う定員確保と魅力化

県内でも少子化が進む中、「国際交流科のみ」という特化型の学科構成を中学生にとっていかに魅力的に伝えるかが重要である。探究活動の充実などにより、単なる「語学」に留まらない付加価値（プロジェクト学習）の強化を図っていくことが必要である。

・地域資源のさらなる活用

伏木地域の歴史的な街並みや港湾機能（伏木富山港）を、いかに「生きた教材」として学びに深く組み込めるか。単発のイベント参加に終わらず、持続的な地域連携モデルを構築することが大切である。